

学校運営方針		学校運営計画(4月)		
<p>スクールミッション: 「新しい時代に対応した人材を育成し、社会をリードする学校」 商業・家庭に関する専門的な学びをいかに、地元商店街での販売活動、商業施設でのファッションショー、直方市との協働による子育てサロン開設など、地域産業界、行政と連携した教育活動を展開することで、地域社会へ貢献できる商業・家庭分野の専門家を育成 (1) あきらめず最後までやり通す、学ぶ意欲の高い人材(知) (2) 礼儀を重んじ、相手を思いやる豊かな心をもった人材(徳) (3) 困難なことにも忍耐強く挑戦する体力と、くじけない心をもった人材(体) (4) 地域社会を支え、地域社会に貢献できる人材(地域創生)</p>				
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標		
<p>本校は、筑豊地区唯一の専門高校であり、入学時から「社会に出るための力を身に付けること」を目標として、教室での学習と共に様々な体験活動を多く取り入れた「実学」重視の学習により、卒業後は地域社会を支え、地域社会に貢献できる(地域創生)人材となるべく教育活動を推進している。ただ、近年、入学者が定員に満たない現状が続いていることについては真摯に受け止める必要がある。</p> <p>今後、変化の激しい時代を生きる生徒たちが、社会の中で活躍できる資質・能力を育成するためには、今年度から始まる新カリキュラムの実践と授業改善にかかっているといっても過言ではない。学習活動において、教員による一方通行の授業から、生徒自身が主体的・能動的に参加する授業改善に取り組んでおり、資格の取得だけではなく、「何が得意になるのか」、「どんな力が身につくのか」をわかりやすくメッセージとして発信していく必要があり、個に応じた適切な指導、きめ細やかな指導を継続し、それぞれの生徒の持つよい点を大いに伸ばすカリキュラムの工夫・改善が求められる。</p> <p>こうした課題を解決し、地域産業界を支える職業人を育成するためには、外部機関との連携を深めるとともに、個別最適な学び、協働的な学び、ICTの活用等を含めた「本校独自の教育」を模索していく必要がある。</p> <p>今まで以上に「実学」を重視した実践的・体験的な教育活動を推進し、本校ならではの「特色ある教育活動」や実績を中学校、地域等へ積極的に発信し、専門高校としての魅力や強みをアピールする場を設定し</p>	(1) 基礎学力の定着及び主体的に学ぶ意欲の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的・基本的な学力の定着を図り、ICT活用や習熟度・TT・AL型授業などを通して思考力を高め、主体性を引き出す授業改善に取り組む。また、教科内連携による指導法の共有及び公開授業等を活用した教員のスキルアップを図り、個別最適な学びと協働的な学びを推進する。</li> </ul>		
	(2) 新カリキュラムの実践と観点別評価の研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>起業家教育等の視点にたち、「どのように学ぶか」という学びの質を重視した教育活動を実践し、新しい時代に必要となる資質・能力を育成する。また、教科等横断的な視点に立ち、カリキュラムマネジメントを推進し、観点別評価を充実させ、授業の充実・改善を図る。</li> </ul>		
	(3) 鍛えて、ほめて、生徒の可能性を伸ばす教育活動の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動・生徒会活動・ボランティア活動等を通して、自尊感情、コミュニケーション能力、チャレンジ精神を育成し、効果的に「ほめる」ことによる自己肯定感や達成感を向上させる。</li> </ul>		
	(4) キャリア教育の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の進路を切り拓くキャリア教育を充実させ、成人年齢引き下げによる社会に主体的に参加する態度と能力を育成するとともに第1希望進路実現を目指す。また、3年間の計画的・継続的なキャリア教育を構築し、個に応じた進路実現を支援する。</li> </ul>		
	(5) 地域貢献活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門教育や産業界を活用した実学の実践を展開し、コミュニティ・スクールの導入に向けた具体的な体制づくりを行う。地域創生をテーマに、本校の専門性を活かして地域社会への貢献活動を行い、地域に密着した学校づくりを行う。</li> </ul>		
	(6) 積極的な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>募集人員の定数確保に向け、早い時期から計画的に中学校訪問やオープンスクール等を行うとともに、SNS等による広報活動を更に充実させ、専門高校の強みや魅力を様々な場面でアピールする。</li> </ul>		
	(7) 安心安全な学校の環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な教育活動から生徒相互の理解と尊重を促し、生徒一人ひとりが安心・安全で居場所のある学校を作るため、多様性を認め合い、自他の人権を守ろうとする実践力・人権感覚を育成する。また、学校・家庭・地域と連携し学校環境の整備を図る。</li> </ul>		
	(8) 働き方改革に基づく教職員の意識改革及び業務改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員一人ひとりが、やりがいと充実感をもって教育活動に取り組めるよう、管理職のリーダーシップのもと、校務におけるICT化を推進し効率化を図り、「チームで行う」意識を浸透させ、情報共有と協同により業務を推進する。</li> </ul>		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度の主な課題
学事部 教務 情報研修	基礎学力の定着及び主体的に学ぶ意欲の育成に向けた観点別評価の研究	各教科に各科目の年間指導計画とともに学期毎の評価シートを提出してもらう。 年度当初に、学年集会で教務からの成績評価の説明を行い、授業で授業担当者からの成績評価について説明を行ってもらう。 各学期の成績を統計的に分析し、次年度の評価について研究する。		
	統合型校務支援システムの活用	教務規定に合わせた成績処理オペレーションを構築する。 出欠入力方法の変更に合わせてオペレーションを構築する。 他分掌と校務支援システムの操作情報を共有する。		
	遅刻数の抑制	遅刻指導を見直し、各学年と連携した指導を行う。 校務支援システムを使い、出席状況の情報を共有し、指導に役立てる。		
学事部 修学	職員研修・研究授業の充実	ICTに関する研修会を全体で3回実施し、希望者を募った研修会も企画・実施する。 相互授業訪問週間を実施し、各自の授業改善につなげる。 授業訪問シートを活用し、授業改善のための情報共有を行う。		
	読書活動活性化・図書室利用者数増加	図書委員会による読書活動の推進活動を、図書だよりや校内放送等を活用して実施する。 落ち着いた読書をする時間を設けるため、朝の5分間読書を実施する。 多読チャレンジコンテストを実施し、図書室利用者増加につなげる。		
	生徒・職員のICT活用推進	職員研修でChromebookを活用し、授業等での使用に役立てる。 GoogleClassroomを授業用・緊急連絡用に整備して活用する。 職員間における業務連絡等に学校ポータルサイトを積極的に活用できるように整備する。		
学事部 修学	生徒が安心安全な居場所としての学校の確立	生徒情報の収集集約に努め、いじめ問題対策兼教育相談委員会で検討された内容を、全職員で認識共有し、いじめや差別の予防と早期発見体制を確立する。 生徒の人権感覚の醸成とともに、教員自身が人権感覚を意識し、発言・態度に十分留意し、見直しを行う。 職員同士が相談しやすい環境や雰囲気作りを行う。		
	就・修学保障、進路保障の充実	経済的に就・修学が困難な状況にある家庭に対して、担任・学年や各部課と連携を行い情報収集や、手続きのサポート等を行い、生徒の学習環境充実の一助とする。 理由のはっきりしない欠席者に関して、担任・学年や各部課と十分な連携を行い、積極的に家庭訪問を行う。不登校や問題行動に対しては、その経過や背景について、定期的に学年会議等で情報交換や協議を行い、問題の解決にあたる。 それぞれの生徒の状況等を考慮した上で、転・退学者数を最小限に抑える。		
	特別な支援を要する生徒への支援	全職員より気になる生徒に関する情報を広く収集し、特別支援コーディネーターと十分な連携を図り、生徒支援を行う。 教育相談委員会で十分な情報交換を行い、生徒の支援へと繋げる。 障がいや有する生徒に関しての、合理的配慮について検討を行う。		
生徒育成部 生徒指導 保健厚生	情報共有及び各部等との連携による生徒指導力の向上	校則違反者等に対する指導において、その反省はもとより再発防止の視点に立ったきめ細かい指導を図る。 様々な事案に対して、迅速・正確・丁寧な指導を行うことで統一化を図り、すべての生徒に対して平等な指導を行える環境を整える。		
	学校行事の活性化	新型コロナウイルス感染症対策の徹底を図り生徒達が何事にも挑戦し、より一層帰属意識を高めるために生徒一人一人が活躍できる環境を整える。 新たな伝統を築き、継承していくために、最上級生を中心に学校行事(ブロックマッチ)を実施する。 生徒会(執行委員会、専門委員会、特別委員会)が中心となって生徒主導で行事を行う。		
	生徒会活動の充実	生徒の意欲、関心の向上を図るために、生徒会活動や部活動の結果報告等の広報活動を充実させる。 本校ならではの広報活動(筑豊高校公式キャラクター等)を展開して、筑豊高校の魅力を伝える取り組みを創意工夫して行う。 生徒会執行委員の会議や研修を行い、学校を牽引するリーダーとしての自覚を与える指導を行う。		
	心身共に健康な生徒の育成を図るとともに、事前予防と事後措置の徹底	保健室入室状況を管理職や学事部長、学年主任に提示し、生徒の心身の健康課題を分析・把握する。 健康診断の意義を全生徒に周知させ、健康診断受診率・医療機関受診率を100%にする。 校外内との連携を図り、チームとして効果的に対応する。 学校感染症の拡大防止や感染対策を徹底する。		
	清掃活動に対する意識の向上と環境美化の徹底	毎日の清掃活動への取り組みを向上させる。 校内美化に対する意識の向上を図る。 必要な清掃用具を揃え、快適に清掃できるようにする。		
	食堂との連携を図り、食育の向上とともに健康増進の強化	「食堂のメニュー表」を全クラスに掲示し、食事への興味関心を持たせ、健康でいることの重要性を図る。 食堂の職員巡回を行い、感染症対策を徹底する。 保健便り等を用いて、調理師の紹介や食育に関する内容について情報提供する。		
	保健・美化委員会活動の活性化の推進	健康診断補助などの保健活動やクラスマッチでの救護活動、文化祭での展示発表を通して、保健委員会活動の活性化を図る。 キャンパスクリーンアップや清掃活動を通して、美化委員会活動の活性化を図る。		

学校関係者評価	
評価	<p>自己評価は</p> <p>A : 適切である</p> <p>B : 概ね適切である</p> <p>C : やや適切である</p> <p>D : 不適切である</p>
(総合)	
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見